

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム

第12回会合 議事録

1. 会合の概要

日時 2022年1月11日(火)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 17名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

| | | |
|----------|-------|---------------------------------|
| 飯田 | 陽一 | 総務省 |
| 河内 | 淳子 | 一般財団法人 国際経済連携推進センター |
| 木村 | 孝 | JAIPA |
| 下山 | 純 | 一般社団法人共同通信社 |
| Suga | Yuji | IJ |
| 高松 | 百合 | 株式会社日本レジストリサービス(JPRS) |
| 立石 | 聡明 | JAIPA |
| 中田 | 諭輔 | 日本ネットワークイネイブラー株式会社 |
| 橋川 | 和利 | ケーブルテレビ徳島株式会社 |
| 浜田 | 忠久 | JCAFE |
| 堀田 | 博文 | JPRS |
| 本田 | 聖 | 個人 |
| 前村 | 昌紀 | JPNIC（司会進行） |
| 森口 | 友里 | 株式会社インターリンク |
| 森下 | 大 | 総務省 |
| 山崎 | 信 | JPNIC（議事録案作成） |
| Watanabe | Shota | Nomura Research Institute, Ltd. |

2. 発言録

【前村】 それでは、5分たってあまり長い間待つのも本意でもありませんので、進めてまいりたいと思います。

本日、いつもどおり冒頭で司会進行を尋ねておりますけども、本日も私がやらせていただいでよろしいでしょうか。

【堀田】 お願いします。

【前村】 ありがとうございます。それでは、そういう形で進めてまいりたいと思います。

それでは、本日投影している形で、本日の議事次第などなど含めた資料が投影されております。IGF 2021報告会の準備進捗状況案ということが資料になっているので、それは後でお見せできるようになっていると思います。

本日のアジェンダ、まず、政府の検討状況の共有というのをさせていただきたいというのは、これはレギュラーであるということと、報告会に向けた準備を進めていきたいというふうに思っております。あと、本格体制という話が、本格体制ということがいいのか、少なくとも組織化をどういうふうに進めていくかという議論は前回の会合でもやらせていただきましたので、それを続けると。それに関しては、報告会でもビジネスセッションというふうに言っていました、組織化議論をパネルディスカッションということに一応していますが、そちらで進めていくということなので、その辺も含めて御相談したいというふうに思っているということです。

それでは、参ります。前回の議論の振り返りということで、大変恐縮なんですけれども、会合議事録が少し滞っております。それで、JPNICで何とか議事録を御提供していきたいと思っているところなんですけれども、本日からの少し改善に向けた動きとしては、本日から外注の文字起こしの業者というのを一度トライアルというのか、試しで使ってみるようにはしております、できるだけ速やかな提供ができるようにしていきたいなと思うところなんですけれども、概要としてはそこに書いてあるような状態です。11回会合――12月の最後にやった部分ですね――がそこに書いてあります。

総務省さんからの状況報告としては、IGF 2021の参加状況、現地参加予定だったが、遠隔に変更になったということで、あとは、各地域コミュニティーの技術発信をしているのが垣間見えると、どんな活動しているかを調査できないかというふうにお考えだというふうなことでした。あと、IGF MAGメンバーにおなりになった河内さんから御挨拶をいただきました。その後は、IGF 2021の報告会の検討をいたしております、報告セッションをして、マルチステークホルダーでやろうということ、その部分は立石さんにコーディネーターをお願いしようということ。あと、DFFT/グローバルデータガバナンスという日本政府が世界に対して提言している政策の内容に関して、マルチステークホルダーで議論をする場ということがあってもとてもいいだろうからということで、テーマセッション、こちらは飯田さんにコーディネーターをしていただくというふうにしました。また、ビジネスセッションというふうに言いましたけれども、少し分かりにくいんじゃないかという御指摘もあるんですが、こちらのほう、要は組織化の話をどうしようかということに関して、私がコーディネーターをするということでやらせていただくと思っておりますという感じですね。というのが、IGF 2021の報告会の内容として、前回合意に至ったと思っているところであります。

それで、宿題の進捗状況に関しては、少し長くなっているんで整理したいなと、前回と同じことを言っておりますけれども、こちらのほうにまとめてあって、まだto be doneがいくつかあるなというふうな感じになっています。

それでは、次に参りましょう。IGF 2023ホストとしての検討状況報告ということで、飯田さんからこれお願いしてよろしいでしょうか。

【飯田】 はい、飯田です。聞こえますでしょうか。

【前村】 聞こえております。

【飯田】 毎回、あまりはかばかしくなくて申し訳ないんですが、ちょっと今回は特に年末年始ということもあり、あまり進んでいません。年明けたので、いよいよ省内もそうなんですけども、外のいろんな国内のグループとともに海外の地域との関係なんかも少しずつ強化していかなきゃいけないかなというのと、あと、MAGが去年の年末のIGFでまたメンバーが替わりまして、今年のメンバーと新しい議長でスタートして、ちょうど今日の夜中に1回目があるのかな、ということなので、河内さんのこともありますので、これから今まで以上に積極的に参加をして、来年のMAGとしてのテーマの設定が、我々が国内から発信するメッセージとうまくかみ合うように議論を少しでもリードするというか、みんなで一緒にそういう方向に進んでいくし、海外の議論がどういうふうになんか議論しているかということ国内でも消化した上で、同じことをやる必要は当然ないわけなんですけども、じゃ、日本としては何が課題で、どういう方向に進もうとしているのか、どうするべきなのかということマルチステークホルダーで共有をして、それを国際的な議論の場にインプットしていけるようなつなぎ役ももう少し果たしていければと思っておりますので、そういう意味で、まさにこういう場の議論をしっかりMAGとかそれ以外のインターセッション、これもなかなか去年はついていけなくて、余談になって恐縮ですけども、突然Policy Network on Environmentというところに突っ込まれて、環境問題とデジタルというのは分かるんですけども、あまりエキスパチーズもないし時間もないので、ちょっと辞退したいと言ったんですけど、3回ぐらい辞退したんですけど駄目で、最後までメンバーにさせられたんですけど、途中からもう出られなくなったりいろいろして、ただ、私自身にもう少し知識とか積み重ねがあれば貢献もできたし、あとそこからもう少し得るものがあったら、それを国内にフィードバックするとかいうこともできたんだらうと思うとちょっと残念に思っています。勉強する機会にしたいと言いながら、それさえできずに終わったんですが、インターセッションにはベストプラクティスグループとポリシーネットワークとあとダイナミックコアリションだったかな、形態が違い、必ずしもよく分かってないところがあるんですけど、幾つかそのテーマで活動しているグループがちゃんとあって、それはそれでアニュアルのカンファレンスの中でレポートをしたり、ふだんから研究をしているというのもありますので、例えば場合によっては、今年から来年にかけて日本の方もそういうところに参加していただくということが出てきてもいいのかなとも思っています。また、そういうのは御紹介できるように少し情報も頑張ってお集めたいと思いますので、また機会をいただければ皆さんで議論できたらいいかなと思っています。

ちょっと準備状況の進展という割には迷走していますけども、取りあえず新年また心機一転で進めたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【前村】 飯田さん、ありがとうございます。

御質問やコメントなどありましたらいただきたいと思っております。プッシュボタンでも押していただけると分かります。

【山崎】 直接関係ないというか、我々の範疇じゃないと思っておりますけども、あと1年半ぐらいということで、IGFの例えば会場ですとかはもう押さえられているのかなというのがすごく気になってし

まいりました。というのは、ICANN会議を神戸に誘致したときに、もうかなり前から会場は押さえていたりするものですから、政府の場合はいろいろ状況が異なると思うんですけども、その辺り、もし差し支えなければ状況をお教えいただけるとありがたいかなと思ったりするんですけど、いかがでしょう。

【飯田】一応その検討もして、仮押さえをしているところもあります。一方、国連の評価ミッションが来ないといけないんですね。会場も見て、彼らの条件に合っているかどうかの検査を受けて、合格した会場しか使えないということがありまして、それがまだこのコロナもあって、ずっと延び延びになっています。国連の事務局自体は、日本は心配ないって言って、割とゆったりしているんですけども、ある意味こっちは決められないのでやきもきしているところもありまして、相当な規模じゃないとやっぱりこなせないとは思っていますので、かなり日本中見渡しても限られている会場候補の中から、候補を二、三頭に置きつつ、取りあえず1つ仮押さえしたという状態です。ですので、この辺はなるべく可及的速やかに進めて、決めていかなきゃいけないところです。(音声中断) 我々のリストにも載っている状態でございます。

【山崎】警備がものすごく大変というか、費用も、ちらっと伺ったことがありますので、気になった次第です。

【前村】確かに蛇足めいたことをコメントしようとしているんですけども、IGFとはいえ、国連の会議となると、そこに国連のどこの主権も及ばないというのか、国連のセグメントをつくるから国連警察隊が入らなきゃいけないしとか、そういう非常にハイプロファイルな仕掛けになっているというのは、IGFができた当初によく聞いて印象深かったところなので、その辺がとても条件が高いというのは想像に難くないところだなと思いますね。というわけで、ただ、仮押さえできたところがあるというのは朗報の一つなんじゃないのかなというふうに思います。

ほかに何かありますか。なければ次に参りましょう。

IGF MAG報告ということで、今、飯田さんのほうからも、今日の夜にMAGの会議があるというふうなことなので、それなんですよということかもしれないんですけど、河内さん、何かありますか。

【河内】そのとおりで、今日の夜ありますので、今回はオリエンテーションセッションなのかな、なので、中身的にはあまりないかもしれないんですけども、次回、簡単にでも御報告させていただければと思います。

【前村】メーリングリストとか何とかで、何となくメールは飛び交い始めた感じですか。

【河内】そうですね。

【前村】分かりました。じゃ、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【河内】よろしくお願いいたします。

【前村】それでは、報告会に向けてということで、報告会の準備進捗状況というのは、これは山崎さんに投げればいいですかね。

【山崎】はい。

【前村】 お願いします。

【山崎】 前回までに決まったことはこちらの資料にまとめてありますが、万が一違っているとかがありましたらそこで割り込んでいただければと思います。

まず、オープニングとクロージングですけれども、前は、挙げてはいたんですけど、結局中身を議論するに至らなかったと認識しています。必要かという気もいたしますが、必要であればどういう内容にするか、前回、事前会合と同じようにJAIPA・JPNICから挨拶するのか、チームとして挨拶するのか、ほかにやり方があるのかという辺りを今日決めていただきたいなと思います。

あとは、会合の中身を順番にIGFの報告で、パネルディスカッションとしてDFFT・グローバルデータガバナンスで、パネルディスカッションとして、さっきビジネスセッションと言っていたものですが、国内のインターネットガバナンス関連活動の組織化ということで、では、立石さんがいらっしゃるようですから、まず1番のIGF 2021報告で、政府、民間、技術コミュニティは話者が決まっているんですけども、市民社会のほうは香月さんに打診するということでしたが、ご本人に伺ったところ、ちょっと聞いてないんでという感じで辞退されているんですけども、その後、どなたか候補とか見つかったりしていますでしょうか。

【立石】 すみません、立石です。ちょっと遅れて、すみません、会議が立て込んですみません。

年末からいいところを見つけたいんですけど、まだ連絡が取れていません。実は御存じの方は御存じの電気通信事業法の改正でちょっと今もめ倒してしまっていて、その件でほぼほぼ興味があるかどうかまで、というか、いわゆる実会合じゃないので直接お会いしてなくて、まだ連絡先がもらえてないんですけど、MyData Japanさんというところが、割とプライバシーとかそういうのについてかなりいろいろな御意見をお持ちだし、私個人的に考えていることが近いので、かつEUとかアメリカの動きなんかも割とちゃんと見ていらっしゃるような感じなので、ちょっとそこを何とか落とせないかなと思って今連絡先を聞いているところです。すみません。

【前村】 新経連の懸念に対する懸念って出したところでしたっけ。

【立石】 そうです。

【前村】 そうですよね。なるほど。

【立石】 今日、まさにその会合があったんですけど、うちも懸念の懸念なので、立場的には近いし、近くない、むしろ新経連を呼んだほうがいいのかもわからないんですけど、ちょっとそこまでやるほど、すみません、余裕はなくて、取りあえずは意見の近いところを呼ぼうかなというところです。

以上です。

【山崎】 ありがとうございます。

そうしましたら、飯田さんに2番目のDFFT・データガバナンスのセッションについて、進捗状況をお伝えいただけないでしょうか。よろしくをお願いします。

【飯田】 前回、テーマセッションで、DFFTとかデータガバナンスについて取り上げてはどうかというお話をいただいたので、それは非常に。これは実はいろんな国際的な議論の中で、データフローの話ってすごくトレードと一緒に議論されたりしているところがある一方で、我々はむしろインターネットガバナンスと非常に近い中身だと思っていて、そういう意味で、そういう焦点の当て方をして議論をしていただいて、今まであまりDFFTとかいうことになじみのない方がもしいらっしゃれば、少し触れていただく機会になればいいかなと思っています。

DFFT自体は、正直、鶴みたいなもので、何でもトラストに関わればDFFTの構成要素になってしまう可能性があるもので、今例えばG7で議論したときには、ローカライゼーションとかガバメントアクセスとかプライバシープロテクションとかいう、いかにデータやデータフローを保護するかという側面と、あと、データの取扱いのプラクティスをいかに共有していくかという。例えば国内でも今、データの標準化やデータ基盤を整備して、いかにデータを使いやすくするかということをしてデータ戦略でやっているわけですが、そういうことは各国やっぱりいろいろばらばらにやっているの、そういうものを相互運用性があるようにしていくためにプラクティスを共有していこうというような要素が全部入った状態になって、でも、これでも全然ごく一部だと思っていて、例えばセーフティーをどう確保するかとか、ローカライゼーションだけじゃなくて、例えばインターネットシャットダウンをどう考えるかとか、いろんな要素がまだいっぱいあると思っています。個別のフォーカスを当てるということもちょっと考えたんですけども、やっぱり先ほどお話ししたとおり、まだそんなになじみがない言葉だろうと思われるDFFTをいろんな人に知っていただくという意味では、総論的に議論して、トラストとフリーフローの関係というのがどういうものか、これはDFFT自体がもともと2016年ぐらいの時点では、フリー・フロー・オブ・インフォメーションということで、いかに越境流通を促進するかというテーマと、そうはいつつもプライバシーの保護やセキュリティの確保というのをやらなきゃいけないという、二項対立的な、二律背反的な概念として議論していたのを、そうじゃなくて、両方がお互いに相乗効果のあるもので、トラストがあればあるほど自由にする余地も広まるし、自由な流通を広げていくことによってトラストが積み上がっていくという部分もあるんだという整理をしたのがこの概念でして、そういう意味で、トラストに結びつくものは全部フリーなデータ流通の涵養・育成に貢献するはずだ、やらなくてはいけない、必要なものだという整理をしようとしているものです。

なので、では、どこら辺にどういう焦点を当てるかという、今までは割とプライバシー保護とかそういうところに焦点が当たっていた、あるいは、本当はインターネットガバナンスという文脈でいうとセーフティー、違法有害情報とか、あるいは海賊版対策とか、そういうことがちゃんとできていることが自由なデータ流通、データ利活用環境に貢献するんだという切り口も当然あると思っていますけども、今回は全体的に議論していただくような中身にして、そういう方をお呼びできたらなと思っています。この前もちょっとお話にあって、これは必ずしも各コミュニティーを1人ずつそろえるというのがいいのか分からないんですけど、少なくともビジネスやシビルやテックの方というのに入っていたほしい方がいいのかなと思っていますのと、あと、こここのところのIGFグローバルの傾向として非常にユースに焦点が当たっているの、今回、できればユースの代表みたいな人も1人呼べたらいいな。ただ、それがどういう人がいいのかというのはまだちょっと考えている最中です。なので、もし今日この場でも構わないんですけども、こういう分野の方、あるいはこういう具体的な個人の方、あるいは私がいいんじゃないかという方がいらっしゃれば、ぜひ推薦をいただければ参考にさせていただいて、お願いできればお願いしたいと思っています。まだ具体的な名前とかをこちらから挙げる段階には至って

いませんけども、今、そんなようなイメージで考えております。

【山崎】ありがとうございました。

そうしましたら、3番目の国内のインターネットガバナンス関連活動の組織化ということで、前村のほうから現在の進捗状況を伝えていただければと思います。よろしくお願いします。

【前村】前村です。

これに関しては、セッションに誰を呼んでどう議論しようかというふうなアプローチというよりも、今、今日も先ほどちょっとした資料をお送りして本日は話そうと思っているんですけども、そういった検討が進捗するに従ってこの辺の人たちに語ってもらうのがいいのかなというふうな順番で、これはコーディネーターとしての私がそういうふうな順番で考えたかったというところでありまして、どういふふうな皆さんに出てきていただくかというのはちょっとまだ明確になっていないです。というのと、もう一つは、いずれにしてもこれはオンラインの開催なので、Zoomの上で参加者がばーっと並んでいて、ウェビナーにはしないでしょうから、参加がばーっといるという状態には変わりはないので、パネリストを指名せずに全員で何か必要に応じて意見を言っていただくみたいな、そういうふうな構成でもいいのかもしれないと想像はしているんですけども、ただ、あまり自由にやり過ぎても、枠組み、枠をつくってやらないと立たないのかなという感じもしています。というのが現在の状況なので、これから当日に向かって議論を進めながら、その中で徐々に、じゃ、こういう形で話をしましょうかというふうなことでつくっていければなと思っております。結果的には、御託を並べていてもあまり準備が進捗しないということなのかもしれないと皆さんお感じになるのかもしれないんですけども、そういうふうに言われないようにというのか、議論が進んでいくということが重要ですし、それに従って組立てが組み上がっていくということができていけばいいかなというふうに思っている次第です。

ひとまず以上です。

【山崎】ありがとうございます。

そうしましたら、ちょっと0番のほうに戻って、オープニングとクロージングですけれども、いかがでしょう、これは必要でしょうか。やったほうがいいでしょうか。それとも、やらずに極力コンテンツに時間、枠を割いたほうがよいでしょうか。というのを投票機能で準備できていればよかったんですけど、今からつくれるか……。

【前村】意見です。

【山崎】はい。

【前村】JAIPA・JPNICから挨拶を出すというアイデアが、少なくとも前回、事前会合ではそういうふうなセットアップにしたんですけども、これを毎回そういうふうにするということになると、ちょっとそれが強過ぎるのではないのかなと。むしろほかのどなたか、似つかわしい方をお願いするというのがあるのかなというふうに思います。これは積極的にJAIPA・JPNICからの挨拶というのは避けたほうがいいんじゃないのかなというふうに僕は実は思っているということをちょっと共有させてください。

【山崎】JAIPAから木村さんが参加なさっているので、立石さんでも結構ですけども、キムラさんか立石さん、いかがでしょうか。

【立石】すみません、立石ですけど。

私も前村さんと一緒に、賛同です。あまり出ないほうがいいかなと。どうしても誰もいなければ誰かが挨拶をしますが、そういう控えであって、積極的にはしなくて、全く違う団体のほうがいいかなと私も思います。

以上です。

【山崎】ありがとうございます。

そうしますと、この方、もしくはこの団体がいいとかという候補をお持ちの方っていらっしゃるかな。

堀田さん、手を挙げていますね。堀田さん、お願いいたします。

【堀田】堀田です。

前村さんとか立石さんがおっしゃっていたように、JPNIC・JAIPAで、例えばほぼ同じ話になるとつまらない、前回と同じになるのもつまらないので、気の利ことを言うというのはなかなか難しいので、むしろなくてもいいのかなと。あるとすれば、あるとすればと言うと失礼ですけど、総務省さん、飯田さんにIGFへの意気込み、2023の意気込みとか、そんな感じで日本政府としては考えているみたいなことをしゃべっていただくのがいいのかなというふうに思っています。

以上です。

【山崎】飯田さん、いかがでしょうか。ちょっといきなりむちゃ振りかもしれませんが、御挨拶いただくということは可能でしょうか。

【飯田】ありがとうございます。

もし総務省で御挨拶したほうがということであれば、中で相談させていただいて、私でもいいんですけど、何度も何度も同じ顔が出てくるのもあれだし、同じようなことを繰り返し言っている感じにならなくもないかもしれないので、もっとフォーマルな人間が出られればそれもいいかもしれないので、ちょっとその場合、中で相談させていただければと思います。

【堀田】賛成です。

【山崎】ほかに御意見ございませんでしょうか。

【前村】前村ですけども、今の飯田さんのおっしゃり方はとても賛同するところです。同じように、堀田さんと同じようにというのか、総務省さんからどなたかというのはいいなと思うというのと、こういった会合を何度もやっていくと、その度々にどなたか御挨拶していただくというのが取まりどころとしてあるんじゃないのかなと思うとすると、ステークホルダーのセグメントを回していくというふうなセ

ンスで、例えばビジネスセクター、じゃ、次はビジネスセクターにしようかなとか、そんな感じで、新鮮なというのか、こういった活動に寄せる期待みたいなものをいただいて、なるほど、そういうふうと思うんだったらこうしていこうというふうな新たな動機になるようなスピーチをいただけるとというのがすてきなんじゃないのかなというふうな感じで思っております。

以上です。

【山崎】では、今回の報告会のオープニング・クロージング、ですから両方は要らないということで、どちらの、オープニングかクロージングかということで、総務省さんからどなたかということで、飯田さんが引き取って省内で御相談いただけるということになったということで、これも決まりということですね。

そうしますと、ここは今回中身についての進捗は以上ということかと思しますので、司会のほうにお返しします。

【前村】ありがとうございます。

もう一つ、飯田さんのところで、ユースをどうしようみたいな話がありましたが、それにお答えできるのかどうか分からないんですけども、先日、先日と言っても随分前なんですけども、若年層向け、ユース向けのイベントをやったりしていたんですね。こちらのほうでも御紹介しましたが、Gather & Talkという、.asiaが主催したものなんですけども、そういうところに出てきた若い方々というのは、お声がけをこちらからできなくはないのかな。山崎さん、どう思う？ それはやれないことかな。

【山崎】ちょっと分からないです。そちらに関わってないので。

【前村】そうか、そうか。

【山崎】個別に聞いてみる、だから、主催者に断った上で個別に聞いてみるのはありなんじゃないかと思えますけども。

【前村】そうですね。とかいうことを考えたんですけど、もう少しありていなことを言うと、例えばISOC-JPの辺りには結構若い方々がいらっしゃって、若年層と言われているISOC-JPにもちょっと相談してみてもいいかなというふうな感じで、という感じがあるんですね。あまり名指ししてもよろしくないのかなと思うんですが、そういった形で、そうすると、今30歳ぐらいの方々まではリーチをするし、もうちょっと頑張れば、学生に近い方々の辺りまではいけないことはないんですけど。そうすると、結構メンツが固定化していくというところもちょっと傾向としてはあって、なおかつ何セグメントと言えいいのかというのがちょっと分かりづらくなっていくなという感じなんですけど。というふうなアイデアは、飯田さん、どう思われますか。

【飯田】ありがとうございます。

私も中で、高校生とか大学生とかで結構そういう問題意識で議論したり、イベントをやったりしている人たちもいるということも聞いたので、まさに今お話しいただいたような方の中から、あまり名指しでというよりは、確かに主体的に出てきていただく方がいればいいのかなと思いました。セグメントを

どうするかというのは確かに難しい問題なのですが、実際にはグローバルIGFでもほとんどセグメントのように立っている感じもありますので……。

【前村】ユースっていうセグメントがある感じですね、最近。

【飯田】ええ、感じなので、それを正式なセグメントと認めるかどうかはちょっと横に置いておいて、活性化のためにも、できれば少し御参加いただいてもいいのかなと。あとは、固定してきちゃうのはいづれにしてもあまりよくないとは思いますが、そこら辺は長期的に工夫していくにしても、取っかかりとしては少し、少なくともアプローチしてみたらどうかと思っていますところですよ。

【前村】そうですね。少し話をとっ散らかしちゃいますが、若年層をどうやってエンパワーしていくとか、ちょっと横文字で話し始めると怪しいという話がありますけど、JPNICみたいなのところも若年層の能力開発みたいなのところをやるべきではないのかとか、そういう取組をやったほうがいいのかもわからないなとかというのは思うところで、一つのテーマだろうというふうに思っているところですね。ありがとうございます。

そのほか、IGF 2021報告会に関して、コメントや御質問がありますかね。少なくとも今ので2月3日の当日の進行がクリスタルクリアに分かったということでもないと思うので、御質問などいろいろあるんじゃないのかなと思うんですけどね。

堀田さん、お願いします。

【堀田】堀田です。

細かいことなんですけど、中のセッションでCとMが分かれているんですけど、少なくとも現時点で、もちろん人が多い、たくさんできるとしたほうが良いというのは分かった上でですけど、今豊富な人材を抱えているわけじゃないんで、あとセッションの立てつけをCとMの間で共有するというのも大変難しいことだと思うので、Cの方がMをやるということも共有するというふうに決めておいていいんじゃないかというふうに思いました。

【前村】なるほど。

山崎さん、どうですか。

【山崎】CとMと書いたら便宜上というか、別のチームもセッションもひよっとしたらあるかなというところで書いただけで、大半が一緒になるとは思っていましたが、ですから、それは各コーディネーターにお任せしたいと思います。逆に分けたほうが、分けたいというところもひよっとしたらあるかなと思いましたが。

【前村】はい、そのほかありますか。

【山崎】前村さんのほうにお返ししちゃいましたが、実は中身だけじゃなくて、ロジスティクスもあって……。

【前村】もう少しハンドルしてください。

【山崎】 もうちょっと続けなきゃいけないということでお願いします。

前回、前々回の議事録はできてないんですけども、発言を機械的に文字起こししたやつを見ても、イベントログをどうするかはあまりはっきり日程以外は決まっていなかったように思えるんですけども、チームはつくらず、JPNICはボランティアでやることになっているということです、そうできれば一番いいんですけども、ちょっとほぼ私1人で、もしくは前村がちょっとという感じですので、もしお手伝いいただける方がいらっしゃったら手を挙げていただければと思うんですけども。やっていただくと、そんなにあれもこれもということではなくて、主に当日ですね。前日最後の追い込みとかではお手伝いいただく可能性がありますけども、当日のZoomですとか質疑応答の交通整理ですとか、そういったことを想定しています。ということで、どなたかロジスティクスのお手伝いいただける方がいらっしゃったら挙手ボタンを押していただければと思います。

そうしましたら、メーリングリストで改めてお願いを出しますので、そのときに受けていただける方は反応いただければと思いますので、現時点では、じゃ、これぐらいにしておきます。準備会合に比べると大分軽くはなるとは思いますけども、ゼロにはならないということで、あとは冗長化というか、一人体制よりは複数いたほうがいろいろと都合だろうと考えて御質問させていただいた次第です。

以上です。

【前村】 見落としていました。皆さん、ぜひとも御協力いただけたらと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

報告会関連は以上でよろしいでしょうかね。質問やコメントはございますかというのは先ほど聞いたような気がしますので、先に進みましょうと思います。

それで、本格体制と言っている部分なんですけども、先ほどPDFで資料をお送りしていますが、ここで投影してみようかなと思います。ちょっと待ってくださいね。準備がよくなかったです。ちょっと待ってください。

【山崎】 もう共有しました？

【前村】 ありがとうございます。

今、チャットウィンドウでグーグルドックスのリンクをお送りしました。こちらのほうで御覧いただくことができますということですね。それで、ちょっとこれは書いてきましたというほど大それたものじゃなくて、ただ、今までに議論できていなかった何点かを議論できるように少し工夫をしているというふうなこともあります。幾つか今まで組織化という議論をしていて、メーリングリストを改めて眺め返してみて、幾つかの論点というのか、ありましたので、その辺から自分で私自身がこういうことを考える上で、ああ、この辺がまだ分からないなみたいなことを取り上げながら書いてみたものなんですけども。すごいちょん切れていますけども。していきたいと思います。

これ、グーグルドックスのほうを見ていただいたほうが。僕が出しましょうかね。ひょっとしてそっちのほうがいいんじゃないかな。これで見えているんじゃないのかなと思います。

まず、設立形態というふうなところから行くんですけども、今のところ、活発化チームというのはメーリングリストで3週間に1度ミーティングをして、それで、少なくともチャーターは明確にするというところまでやりましたよねと。活動をスケールアップしていく上では組織化する必要があるんだというふうなことで、こういうことを考えているということですね。それで、末には、末にはというのか、IGF 2023の日本会合を開催するに当たっては、その民間側の受け口になるようなものをつくっていく必要があるんだろうなというふうに思っているということですね。

それで、まず、設立形態というのは、これは何か当然みたいなことを書いてあるんですけども、法人として例えば一般社団というのはつくれますので、書き物をすれば、一般社団とか法人化するかというと、それは必要性が顕在化したときにやるんだろうと。そういう意味では、任意団体としての立ち上げということになるんだろうなというふうに思っていますと。その次に、一般的な任意団体の立ち上げというのは、要領があって、メーリングリストでもお話ししたとおり、設立発起人というのを募って、その発起人が設立時の会則にアグリーをしてみたいなことでやっていくということで、それが、オバタさんからの指摘にもあったように、一番納得性が高い立ち上げができるんだろうなというふうに、だと思っています。

そうすると、その辺からどうやって行くかというのが幾つかオプションがあるんじゃないのかなと思っているということですね。つまり、設立発起人にはどういうふうな団体になっていくのかというふうなことで、恐らくインターネット関連の団体、特にIGF活動が重要だと思っているJAIPAさんもそうですし、うちもそうなんですけども、こういったところは、設立発起人に名前を連ねるのかなと思います。それ以外に活動の幅を広げていきたいという意味で言うと、マルチステークホルダーを体現するべく各セグメントの代表的な団体というのが名前を連ねていただきたいものだというので、お声がけをしていく必要があるんだろうなというふうに思っていますと。そうすると、発起人って何か要件があるのかなというところも少し気になってきます。あとは、何社ぐらいだと一番円滑に進むのかなと。一番やりやすくなる、一番妥当だと、効果的だということやってほしいと思うんですよ。それがどれくらいのパーセンテージなのかと。字が小さいですか、150%にしてみました。見やすくなったでしょうか。そうしたときに、設立発起人は何社かみたいなのに対して、政府の位置づけというのが何なんだろうなみたいなのところが気になってくるのかなというふうに思います。という辺りなんですけども、この辺でちょっと切って、この辺どうお考えですかというのを皆さんにお伺いしたいところなんですけども、突然振るといってもあれなんですけども、こら辺に関して、何か御意見やお考えがある方はいただければと思いますけども、いかがでしょうかね。

今、ぱんと手が拳がらないようなのであれば、一通りもう少し話をしていったところのほうが考えやすいということかもしれませんので、ちょっと進めさせていただこうかなというふうに思います。

というのが、設立発起人を誰にするんだというふうな、端的に言うとそういうことになるんだと思います。

そして、もう一つ気になっているのは、活発化チームとJAPAN IGFとの関係というのが何かしらあるんじゃないのかなと思っています。この辺は、実は活発化チームの議論をしていく上でいろんな考え方があって、なかなかみんな共通の認識に至るというのが難しいところだとも思っているんですけども、設立発起人がいて設立するんだよということを考えると、気になったことは、今まで主体として活発化

に向けた議論を行っている我々活発化チームというのが今までの活動の主体だったはずなので、そうすると、この活発化チームというところと設立発起人との関係というのが、あれ、何なのかな、人に渡すのかなとか、設立発起人というのは御主人であって、賛同しているわけですからね、というふうな関係、何なんでしょうね、この2つの関係というふうなことが少し気になってくるということなんですね。

もう一つは、活発化チームというのは、最初にやり始めた目的というのは、国内IGF活動の推進であります。推進した地平線というのか、向こうには、2023年の日本開催というのがある、日本開催、開催国としてまあまあこれくらいやっているよと言えるような国内IGF活動に持ち上げていきたいというふうに思っているわけなんですけども、そうすると、この団体というのは法人——法人と書きましたけども、組織って書こう——この組織は、国内IGF活動をやる組織ということになるのかなと。そういうことでいいでしょうかねという話ですね。

というのと、Japan IGFというのをちょっと別個に、活発化チームというのとJapan IGFというのを独立して捉えるというふうにすると、そもそも活発化チームとJapan IGFの関係というのはどういうものかというのがしっくり、すーっと共通認識に至るところからは少し離れているというところかもしれないと思います。私の理解で言うと、Japan IGFを今後もっと盛り上げていこうよねと言っていたJapan IGF関係者の中から、もっと輪を広げてIGF活動を進めていきたいよねという意思で活発化チームみたいなものをオープンコールしたと思っていますので、ほぼほぼこれで好ましいチャーターリングができたりなんかしたら、Japan IGFを名のるべきんじゃないかなというふうなのが、私自身の感覚なんですけども、それとは違うことやこういう条件が必要だというふうにお考えの方がいらっしゃるのかもしれないと思います。Japan IGFを運営する組織としてこの新しく立ち上げる、組織化する組織というのを定義するんですかねというふうなことです。

そうすると、次の部分は何を言っているかというのと、これは、National Regional IGF Initiativeと言われているのは、組織が何らかのエンティティが主体であることが必ずしも想定されていない。「年に1度のIGF的な会合」として定義されているというふうに書きましたけども、なので、組織にしようかなと、私とかは割とそういうふうなことを考えてしまうところもあります。IGFな何かの組織じゃないはずだというふうに冒頭、そういう観念でやっていたというところもあるんですけども、ただ、冒頭にそう思っていたということと、活動を進めていく上で必要になってきたことはやらなきゃいけないということは2つともあるんじゃないのかなというふうに思っていて、この辺を皆さんどういうふうにお考えなのかなということが知りたいというのか、お話をしてみたいというふうに思っていますということです。これが2番目のポイントです。

3番目としては、活動規模や事務局の体制というふうに書きました。これは単に今までに書いてきたことを整理したことなんですけども、過去にやったIGTFのケースというのは、年間予算大体1,000万円ぐらいでやっていました。専任の事務局長というのは、これは会津さんなんですけども、会津さんをお願いをして事務局長としてやっていただいたということと、あとは、ウェブとメンバーリスト管理を外注しておりました。これでどれぐらいのことができていたかというのと、IGTFという組織立てを動かすための理事会や幹事会の運営をやったということと、会津さんをお願いをして、会津さんがWSISの会合などに出張して参加をして、あるいは意見提出をするというのを会津さんが面倒を見てもらったりというふうなことができました。その程度が年間予算の1,000万ということですね。下の3,000万というのは、小畑さんのおっしゃったことなんですけども、専従の事務局員が雇えますよというふうにおっしゃいま

したということで、これがほかの細かいことがどういうふうな値なのかというのはちょっと今のところ不明です。また、コストダウンのためには事務局代行ということをしてサービスしている事業者さんというのはいるので、こういうところに幾ら出したら何をしてくれるのかというのは少し確認してみる価値があるとは思っているんですけども、これはこのチームの中で、そもそも事務局代行なんて我々がやることじゃないというふうな、そういうセンスもあるかもしれないので、それは皆さんに聞いてみたいなと思うところです。

そしてもう一つは、もう事務局専従のニュートラルな事務局というようなアイデアがもともとの原始的なアイデアだったと思うんですけども、やっぱりそれはあきらめて、構成メンバーからの労務提供というのは割と今やっているが、やれていることってちょっと遅延しがちなので、大変心苦しいところなんですけども、JPNIC、ほぼ山崎がいろいろと事務を承っているというのか、事務を分担というのか、負担しているというふうな状態、これをもう少しきっちりかっちりやるというふうなことを必要に応じてやったらできるのかというふうなことです。この辺の活動規模や事務局体制というの、何をやるべきか、何が必要とされているかということによって大きかったり小さかったりするでしょうし、次にはファンドレイズがそこまでできるかできないかということにも、その辺は鶏と卵の関係にありますから、どこかにパシッと決めて、妥当な線が引けるようにしていかなきゃいけないですねということですね。

それで、最後、タイムラインというのはすごく分かり切ったものしか書いていませんが、今後、1月31日にさせていただくのかな、3週間というインターバルだったらそうなるなということなんですけども、次回、活発化チーム会合がありますということ。その週になるんですけども、2月3日には、IGF 2021報告会があります。そこで組織化議論のセッションもありますので、ここでどういうふうに議論をしていくのかというふうなことがあります。その次には、4月になったら2022年度の期首になります。これも一つの節目になるんじゃないかと。2022年度に何かを絡めてやるんですかねというふうな話ですね。そうすると、活発化チームが何かやろうとしているアクティビティーとしては、事前会合と報告会ということなので、この次は期首を迎えた後は、2022年の活動として事前会合をやるのかとか報告会をやるのかとかというのがありますし、エチオピアのIGFというのは、これは今ぱっと見調べて、今というのか、本日ぱっと調べた時点では期日がよく分からなかったんですけども、それに向けて何らかの活動を組み立てていかなきゃいけないので、そもそもあまり悠長なことを言っている時間はないと思うんですけども、こういったことを見据えながらやることをやっていくということが必要だなというふうに思っているということで、一通り組織化を考える上ではこういうことが私は気になっていますというふうなことで挙げてみました。この辺を皆さんのお考え、気になったこと、不明なことというのを伺いながら、2月3日のセッションで少しスケールアップした、スケールアップというのか、よりたくさんの人たちで議論ができるようにしておきたいなというふうに思っているわけなんですというのが準備してきたものの全てなんですけども、これに関して何か皆さんからお考えやお気づきの点があったらぜひとも伺いたいところです。よろしくお願いします。いかがでしょうか。挙手ボタンなどを押していただき、あるいは声を上げていただき。多少はポイントがつくれていたら幸いなんです。あるいは、全く箸にも棒にもかからなかったに近いのであれば、それも忌憚なくお知らせいただければと思いますけど。

堀田さん、お願いします。

【堀田】堀田です。

意見というより、まずもう一つの観点は、総務省さんを中心に実態、2023用の、会の名前は分からないんですけど、実行委員会みたいなのがあって、そこもスポンサーを募られると思うので、そことの関係というの考えなきゃいけないと思います。そのスポンサーと、ここで言っている任意団体なのか社団かは別として、そこにお金を出すのは全く独立のことでもないと思うので、そのリエゾンを上手にやらないと日本として底が広がらないというか、というふうに感じます。

【前村】ありがとうございます。これは気になっていて、気になってないとか、それはクリアだから書かなかったわけじゃ全然ないので、取りあえず棚上げしちゃったという感じなんですけど、重要なポイントだと思います。

そういう意味だと、総務省さんにお伺いしたほうがいいんですけど、どうお考えでしょうかね。ここに書き出したようなことで、何となく組み替えるような体制が取れそうなのか、どんな感じで御覧になるんでしょうかというのは飯田さんにお伺いすればよろしいんでしょうか。

【飯田】いろいろ考えていただいて大変ありがたく思いますし、こういう形でだんだんと皆さんの意識が合っていけばいいなと思って拝見しているところです。今御指摘のあった点は、まさに我々ももともと今回いろいろ御検討いただいたり活動していただいている目的の一つでありまして、23年の取組というのは、当然我々も徒手空拳でできるとは思っていませんので、その資金をいろいろそろえたり、あるいはいろんなリソースをいろんなところから調達してやっていくという、そういうものをうまく活用していただいて、長期的なNRIとしての確立に役立てていただくということを当然考えています。ただ、なかなか具体的に、あれをこうしましょうとかここに幾らありますとかという話をしにくいのが難しいところとして、ちょっとその辺は、今後やり方も含めてうまく連携してやっていければと思っはいるんですが、当然今みたいな意識を持ってやっていただくことが効果的でないかなと思います。

【前村】ありがとうございます。

そのほかお気づきの点がありますでしょうかね。

すみません、名指しをして恐縮なんですけども、お考え、どういうふうにこれを見て思うのかというのをぜひとも聞いてみたい、聞きたいと、お伺いしたいと思っはいます、立石さん、こんなものを書いてみたんですけど、どの辺が気になりますか。

【立石】すみません、立石です。ちょっと声が、何か喉があれですすみません。

【前村】僕もそうなんですよ。

【立石】おおむねそんなに別に反対というか、それもないかなとは思っはいます。というか、今いない人にどうリーチするかみたいな話は多分永遠になっちゃうし、去年の秋ぐらいからの過程の中で、一応基本的なものは全部公表しているということからいけば、それでもう取りあえずいいのかなと。あと、またもめるというか、疑義があったらそれはそれでもやっていくしかもう。そうじゃないといつまでたっても動けないかなと思います。

【前村】そうですね。

【立石】ここのタイムラインとか何とかというのは、もう私も特にありませんのでいいと思うんですけど、やっぱり飯田さんには申し訳ない、事情が分かっていますのであれなんですけど、総務省さんができるだけ早く決まるとありがたいかなというところで、それなしでも動くのかということはどうすりゃいいんでしょうか。なしでも動かないともう間に合わないんじゃないかという話もあるので、その動きをしたほうがいいのかどうかということが、ちょっとそれは表には言えないのかもしれませんが、裏でもいいので実際のところを聞きたいなと――すみません、ちょっと僕の声が――ですね。あとあともう入れておかなきゃいけない人たちに声をかけられていないから動かないほうがいいという話とか、多分そういういろいろもろもろのこれまでのここ以上にいろんなことがあると思うので、そこはちょっとお伺い、すみません、私ではお伺いしていないところがあるのでそこでというふうな感じです。あまりお答えになってないかもしれないですけど。

【前村】ありがとうございます。

堀田さん、お願いします。

【堀田】堀田です。

今言ったように任意団体というもののメンバーは各組織なんですか、それとも業界団体なんですかというのはどっちなんでしょうね。IGF 2023にお金出せるのは多分大企業とかそういうレベルになって、団体としてはそんなの、例えば500万、1,000万というのは難しいような気がするんですけど、我々が集めようとしている任意団体、社団にお金出す人はどっちなんでしょうね。業界団体なのか企業なのか。その辺りもこれから考えるという感じですかね。

【前村】決まり切ったこれですという答えは私も持ってなくて、例えば経団連には入ってほしいとか、当然思うじゃないですか。一方で、企業でもこういうところを支援、支援というのか、参画したいとおっしゃるところにはぜひとも入っていただきたいなと思うとすると、会員となり得るのは業界団体、各ステークホルダーの団体、あるいは趣旨に賛同する企業みたいな、そんな感じなんだと思うんですよね。今、堀田さんの御質問の中には、これの会員になるというのはIGF 2023の協賛をするということなのかも実は明確じゃないということのような気がして、そこは、私の考えとしては、国内IGF活動を推進するための団体というのが規定として立ち上げようとしているものだと思っているんで、これに会費を払って賛同したとしても、そこまでの範囲というのがまず規定の考え方なんですよ。ただ、それだと仕掛けが足らなくて何も動かないようであれば、何か考えていかなきゃいけないなと思うんですよね。

【堀田】堀田ですけども、この任意団体、もしくは社団法人というのは、どっちかというとな業界団体の集まりであるべきなのかなという、これは感覚ですけど、としています。というのは、ある意味永久に続くわけで、ある企業だけが入っているというのはちょっと変で、いろんなステークホルダーが集合的に入っている格好が、形としては少なくともいいだろうなと思うし、実態としてもいいだろうなと思います。一方、2023単発で成功させるというのは、特に業界団体がみんな集まってみんなを支えているという感じじゃなくても、その会がうまくいけばいいのかなという感じもします。

【前村】ありがとうございます。

【堀田】あと、すみません、堀田ですけど、テクニカルな話ですけど、任意団体って事務局と契約でき

るんでしたっけ。

【前村】端的に言うことができるということだと思っんですけどね。任意団体の場合は、代表者が個人名ということになる、個人名というのは本当に自然人じゃなくても法人でもいいと思っんですけども、で契約をするということで、あとはもうひたすら会則でそれをどう共同責任になるように縛るかということだと思っんですよ。というのが私の考え方なんですけども、オバタさんみたいなところからいくと、いや、それも非現実的だから効果がないからそれは意味がないというか、そうじゃないとかいうふうなお話があるのかもしれないですけど。私の感覚は今申し上げたようなことです。

こういうことを書きながらつらつらと思っしたことというのを共有するということが重要だと思っので、少しつれづれになるかもしれないんですけども、先ほど申したように、私自身としては、NRIが組織になるということはしっかりこないんですけども、こういうふうな議論を推進していく上では必要だということであれば、それはやっていったほうがいいのかなど。活発化チームの活動も慎重にチャーターをつくったり、行動原則を明確というのか、きれいに定義をした上でやっているというところでステップを踏んでいますので、その上でマルチステークホルダーボディーとしてのNRIを運営するという最低限の実施体制が整うというのはとてもいいことだろうと思っんですね。一方で、我々はここまで事前会合をやるにしても報告会をやるにしても、まあまあ苦勞していますよね。そこまでたくさんの人を呼べていないし、それぞれの会合に対する提案がわさわさ来るわけでもないし、わさわさ来ないという観点でいうと、APriIGFのほうがわさわさ来ているし、グローバルIGFは言うまでのことはないし、ほかのNRIを見て、リージョナルIGFみたいなものを見ていても困らないぐらい来ているのかなと思っくと、我々日本におけるIGF活動というのは、そこまでの隆々とした感じではないので、まあまあ苦勞していますよね。その苦勞している、苦勞をしそうなことが分かっているところにこういう団体を立ち上げなきゃうまくいかないのかとすると、結構重いものを先天的に背負っているなという感じがちょっとするんですよね。だから、少しそういうドライビングパワーにいずれにしても足りないなと思わざるを得ないというのが正直なところだなという感じですかね。だとすると、それに似つかわしいつつまじやかな組織というものを目指して、スリムな組織を目指してやらなきゃいけないんでしょうし、もう少しがんがん活動するようにするんだったら、それなりにファンドレイズするものというのか、ファンドレイズしていかなきゃいけないでしょうしと、そういう感じのことを考えました。というのは共有させてください。

高松さん、お願いします。

【高松】堀田さんのフィルターからですが、高松がしゃべっております。

すみません、私もどちらかという感想に近いんですけども、あとあと質問、疑問と感想という感じなんですが、今回特に1番と2番と3番って挙げていただいている点って、どの順番で決めていくのがいんだらうというのがすごく今もやもやしていて難しいなと思っました。最初からどのぐらいお金を集められるだろうかという話をして、その予算規模に合わせてプラスボランティアでどのぐらい得られるのかなというのでどこまで活動するのかとか、それに合わせた設立形態を議論していくという方法もありますし、最初に2番の活発化チーム、Japan IGFとの関係、つまりどういった活動をしていきたいのか、していくのかという方針のところだったんですけど、これを決めてからその最大限の理想、目標に向かってお金を集めていこう、人を集めていこうという形で1番、3番を議論していくという方法もあるんだらうなと思っつつ、どの順で議論していくと、一番日本のこの状況に合わせた形態が検討できるのかな

というのが、ちょっと答えが出てないんですが、疑問として出てきました。

もう一つちょっと気になったのが、1番の設立形態のところ、会員という話があると思ったんですけど、予算規模とかどんな団体になるのか次第では、会員というのが趣旨に賛同する、活動に参加したいからという意味で会員というふうになるかもしれないですし、もしかしたら会員と言った人たちには何らか会費という形でお金を払ってもらおうという形もあり得るのかなと思っていて、その辺りも含めた検討が必要になるように思いました。

すみません、全然疑問ばかり挙げたんですけども、思った感想は以上です。

【前村】2点目、何て言いました？ ごめんなさい。

【高松】最初に1番の設立形態のところの会員、いろんな人たちに入ってもらおう。

【前村】会員ですよ。

【高松】これって、お金を払う人たちですか。それとも払わなくてもいい人たちですかというのがちょっと気になりました。会員って何する人たちなんだろう、イコールスポンサーなのかなとか、その辺が分からず。

【前村】分かりました。

私は先生でも何でもないので、書き手として何を考えながら書いたかということなんですけど、一つ、最初鶏と卵ということをおっしゃっていたと思うんですよ。活動規模と資金供出の規模をどうやって決めていくのかと。これはすごく一般的にこういうふうな営みをやるときには出てくる問題なんだろうなと思って。つまりは何かを決めて先に進まないといけないとすると、次にやらなきゃいけないことは、松、竹、梅というのか、大きなパターンとつつましやかなパターンと真ん中の辺りとかというふうなシナリオを二、三書いて、どの辺が一番しっくりくるのかねと言って合わせるというふうな作業をやっていかなきゃいけないと思うんですよ。なので、そういうふうな作業をしないとイケないのかなと思います。

その次には、会員は何をする人というのは、これはひたすら皆さんの御経験の中でほかにどういうふうなケースがあったかということによっては考え方が変わるんだろうと思うんですけども、私の感覚、私の経験から言うと、例えばAPRICOT-APAN 2015の実行委員会というのを、もう6年前ですけどもやったんですけども、このときには、設立発起人というのは5社ぐらいで、それを設立するだけして、後、スポンサーの皆さんに会員となっていただいたみたいな、そういうふうなていなんですよ。なので、設立以後に会員となっていただいて、この活動に参画しますよというふうな人が会員になるというイメージで考えています。これはあくまで会員というのは会費を集めて事業に参画するというふうな観念でやっていますので、例えばISOCの個人会員のように、私はISOCのメンバーですって名のためだけに会員になるというのとは、そういう風な体はここでは取らないんだろうなという風に思っているということですね。ただ、考え方によっては、例えば活発化チームのメンバーを会員とみなして、その会員ベースを見せるほうが運営上いいというんだったら、そういうふうな策を取れないことはないのかなと。複雑にはなっていくんだろうなと思うんですよ。そんな感じで私は考えているんですけど。どうでしょう

ね、高松さん。

というふうな感じで、もし何かお考えを聞かせていただければぜひとも伺いたいんですが、いかがですかね、皆さん。

堀田さん、お願いします。

【堀田】堀田です。

ちょっとマイナス面ばかり言って申し訳ないんですけど、今まで何年間かIGCJとかやってきて、結局IGF的なことをやらなきゃ駄目とか、みんなやっているからやろうよとか、大事ですよとか、やらなきゃ死ぬよとかって言って、脅したりすかしたり突いたり、強力な磁石で磁界をかけてみんな同じ方向に向かわせようとしたりとかやってきたんですけど、結局みんなやりたいことをやって、楽しいこと、やりがいがあること、自分がやりがいがあると思うことしかしないと思わなきゃ駄目なんだよなというのがこの数年の我々の知識、得てしまった知識のような気がするんですよ。だから、そこをうまく越えない限り、結局任意団体つくっても、人、組織は集まってこないだろうなという、今言っちゃいけないことかもしれないですけど、この数年それを痛いほど感じているわけですよ。多分私だけじゃなくて、一生懸命やってきた方はそうだと思うんですけど。ここをどうやって越えるのかという知恵がないのに、また組織に声をかけてもみんな乗ってこない。組織が乗ってきても中の人、人こそ本当にやりたいことをやって楽しいこと、やりがいがあることしかやりたくないはずですので、乗ってこないという状況になってしまうんじゃないかという危惧が拭えないです。前村さんも乗ってください。

【前村】もう何か一言でお返事するなら禿同ですね。ちょっと突破力が足りないんだなと思っていますね。

【堀田】多分突破力というか、やっぱり我々が引っ張っている人間が楽しそうにきつとやってないんですよ。引っ張っていくとかいうか、今例えばここに集まってくださっている方々が。何とかしなきゃいけないとは思っているんですけど、楽しそうじゃないのかもしれないですね。我々が楽しそうにしていれば、ああ、楽しそうなことやっている、俺もついていこう、私もついていこうって、見てみようってなるのかもしれないんですけど。

【前村】どうなんでしょうね。

【堀田】例えばAPrIGFでいっぱいしゃべっている人とかを見ると、やっぱり楽しそうですね。自分が言いたいことが言える場があったみたい。

【前村】そうなんですよ。

【堀田】すみません、ストップをかけるような言葉を言ってしまいましたけど。

【前村】いや、ストップをかけるようなじゃないですね。それ以上に正しいことをおっしゃっていますので。その中でどうするんでしょうかというのをいま一度突きつけられているなど。そういうことを突きつけられるというのを実感するためにも、これぐらいの書き物をして何とかやってみるということは価値があるんだろうなというふうに思うんですけど、ただ、このままで行くと、というのは別にい

いとか悪いとか言おうとしているわけじゃないんですけども、恐らくIGF 2021報告会のビジネスセッションでも、こういうふうなトーンの話をしざるを得ないんですよ。多分することになると思いますという辺りを、それをできればポジティブというのか、今の活発化チームに集ってこうやって議論している皆さんの一番ためになるように組み立てたいなとは思っています。という感じなんですかね。

ほかに、あまり長くただだと議論をしていい話でもないと思いますので、ただ、こういうことをいろいろと話していると、こういうふうなことに気づいちゃったとかというのがあるかもしれないので、もしそういうコメントがあったら、今お聞かせいただくとありがたいです。

山崎さん。

【山崎】 飯田さんと河内さんにお伺いしたいんですけども、MAG会合の場はそういうことに使うんじゃないと思うんですけども、例えば時間が空いたときとかいうか、自由討議の時間とかがもしあれば、ほかの国でIGFを立ち上げた方々の突破力という話がありましたけど、どうやって突破して水平運行に切り替えたのかとかって、もし機会があれば聞いていただけると。特にイタリアは国内IGFを法人化したとか、たしか2019年のIGFで言っていたので、そのイタリアの担当者の方と話す機会があれば、ぜひお伺いいただければなと思いますが、いかがでしょうか。

【河内】 すみません、聞こえますでしょうか。

【山崎】 聞こえています。

【河内】 機会があったら聞いてみられるように頑張ります。

【山崎】 ありがとうございます。本来はお二人とは別物のNRI担当の方が集まる会合で聞くのが筋なんですけど、今その代表が空席でして、ちょっとお二人にお願いしなきゃいけないかなと思った次第です。ありがとうございます。

【飯田】 飯田です。

ちょうど全く同じことを今考えていまして、さっきのお話で、例えばヨーロッパ地域だとEuroDIGという、まさにヨーロッパ全体のIGF活動をやっているグループが、かなり大きいと思うんですけども、私の友人でイギリスの役所を辞めたOBがそこで今すごく活発に活動しているんですが、やっぱり楽しそうにやっているわけですね。楽しいからやっているような人がやっぱり集まっているように見えます。もちろん彼らは、何か報酬があったりほかの理由があるかもしれないんですけども、やっぱり何か問題意識とか目的があって参加していて、それはもしかすると日本とちょっと状況が違って、アジアパシフィックなんか、やっぱり自由なインターネットに対する危機感とか渴望とか熱量が違うのはある程度やむを得ないところもあるのかなという気はしていますし、一方で、日本でそれを刺激するのは、全く我々のインターネットが何も問題ないとも思えないので、じゃ、どういうことをやっていけばいいのかなというのは彼らから学ぶところもあるかなと思っているところです。なので、機会があれば、ヨーロッパに限らず、いろんなところのIGFのリージョナルやナショナルの活動をしている人に聞いてみようと思っていますし、ちょっと前にも出たお話で、それを少し調べてみるのもいいかなと思っていますので、その辺も含めて考えさせていただきたいと思います。

【前村】 飯田さん、ありがとうございます。

先日から総務省さんからの御報告で、ほかのNRIのケースを調べてみるというふうなことがお話に上がっていますので、我々もできる限りでそういうことをやれるようになればいいなというふうに思っているところなんですけども、ここはひとつ調べるかいはあるなと本当に思う次第です。

そのほかいかがでしょうか。

それでは、本日のところは、議論はこんなところでいかがでしょうか。よろしいでしょうかね。次に行こうと思いますけども、Todo確認ですけども、報告会に向けてなんですけども、総務省さんの中でどなたか御挨拶いただけることがかなうかということで、飯田さん、御調整お願いします。それと、2点目に関しては、これはセッションコーディネーションの中で人選とその手はずみたいなことだったと思います。3番目のところ、ユースに対するアプローチというのは、これはまた別に相談させていただいたほうがいいのかもしれないんですけども、私も思案しておこうと思います。アプローチできるものならしてみようかなというふうに思っているところなので、これは飯田さんにまた別途御相談しようと思います。あと、セッションのほうですけども、組織化の議論というのは、今日の今まで30分ぐらいの議論も踏まえながら、どういうふうな組立てをしようかというのはいま一度私のほうで考えようと思います。

本格体制のほうですけども、少し勢いが無い、結構厳しめの状況観測というのが出てきた中でこれをどうして進めればいいのかということなんです。まずは、これ報告会での議論に至るまで、その前に1月31日の活発化チームの会合もありますけども、次にも何らか活路が見えるような議論ができるように、少し準備をオンラインでも進めるということをやっているかなきゃいけないなというふうに思っています。

次回打合せなんですけども、3週間のインターバルということですので1月31日5時からということになります。報告会の事前打合せとしては、もう最終段階の最終チェックみたいなことになると思います。まずはそれが主要アジェンダになると思います。ということですけども、31日ということで皆さんよろしいでしょうかね。少なくとも御異論はないようですので。

すみません、字が小さかったようですけども。

それでは、本田さん、お願いします。

【本田】 月末ですけど、すみません、ちょっと今日は見逃していて、31日月末ですけど大丈夫ですかね。2月の報告会が直後ですかね。

【前村】 そうですね。

【本田】 そうすると、このタイミング……。

【前村】 直後ではなくて直前です。報告会は2月3日です。

【本田】 なので、もう少し早くしてもいいのかなと思ったりもしたんですけど。前週にしたらどうかなとも思ったんですけど。

【前村】いかがでしょうか。

【本田】 どうでしょう。31日ということだし、月末だし、あと報告会の直前なので、直前に何か決めるというわけにもいかないし、もし何か変更が必要なことがあればもう少し前の、1週前にするとかにしておいたほうがいいのではないかと思いますというコメントです。

【前村】 これは報告会の準備という観点でどっちがいいかということだと思いますよね。ということで、立石さん、飯田さん、私はともかく、山崎さん、どうですか、24にしたほうがいいでしょうか、31のほうがいいですかね。どっちがいいですかね。

【飯田】 飯田です。

私は、24だったら確かに少し後の時間もあるので、ちょっと31は確かに直前過ぎるかなという気はします。

【前村】 はい。

立石さん、どうですか。

【立石】 そうですね、僕も31より24のほうが日程、ちょっと個人的な都合も入れて24のほうがいいですね。

【前村】 なるほど。分かりました。

じゃ、少しケイデンスが変わりますけども、とはいっても今回は特別にということか、そういうふうにしましょうということだと思いますので、1月24日にさせていただきますでしょうか。山崎さん、それで大丈夫？

【山崎】 ちょっと確認します。

【前村】 はい。

【山崎】 私も設備も大丈夫だと思いますが、前村さんがちょうどそのど真ん中に別の予定が入っちゃっていますね。だから、そこだけ前村が抜けるということで、24の開催ということになるのでしょうか。

【前村】 ごめん、僕何かあったっけ。何て書いてある、それ？

【山崎】 社内ですが、かなり重要な会議。

【前村】 ごめん、それ確認しよう。ちょっと待ってくださいね。失礼しました。先に感知して駄目とか言うべきだったということだと思いますけども。

【山崎】 開催時間をずらして例えば16時から18時というのは許容されますか、皆様。

【立石】 私は大丈夫です。

【山崎】 飯田さんはいかがですか。

【飯田】大丈夫です。

【山崎】ほかの皆さん、ちょっと早過ぎて困るという方はいらっしゃいます？

【堀田】堀田はちょっと遅れて参加になります。

【前村】では、すみません、そこに24日の今4時って言いましたね、山崎さん。

【山崎】はい、16時。

【前村】あるいは5時から1時間きっちり。それも厳しいかな。

【山崎】まあ、1時間で終わらせられれば。

【前村】やっぱりちょっときついですね。4時からにさせていただくと私のほうは大丈夫です。すみません、堀田さん、また前のほう出られないということは恐縮なんですけど、それでよろしいでしょうか。

【堀田】はい、それで進めてください。

【前村】すみません。

それでは、24日の16時からということできさせていただきたいと思います。皆さん大変失礼いたしました。私が自分のスケジュールをきちんと分からずにいたところが問題でございました。

そのほか、皆さんから特段にありますでしょうか。

本田さん、手が挙がっているのはオールドハンドですかね、ひよっとして。

【本田】すみません。降ろしてないのと、あと、ごめんなさい、私、勘違いしていたので、前のほうは聞けていないんですけれども、このログ、アジェンダ案のほうに書いてあるログを見てはいるんですが、結局事務サポートというか、その話はどうなったんですかね。報告会準備に向けてサブチームはつくらないということだったようなんですけど。

【山崎】ですから、ボランティアを募るといことにして、募ってみたんですが、手が挙がらないので、メーリングリストにかけて募ろうと思いますが、本田さん、ひよっとして手を挙げていただいたり。

【本田】私が、すみません、考えていることの観点は2つあって、組織化云々ということは別として、やっぱり細々とした雑用という、雑用と言うとちょっと語弊がありますが、そういうサポートというメンバーは必要だと思っていて、私自身は、前回と引き続き同じように、同じようにというか、前回と同様に今回の2月の報告会も関与させていただけたらなというふうには思っています。ただ、これは山崎さんに多分ピアでメールしてしまったかもしれませんが、全部がJPNICイコール山崎さんのところに集中してしまうというのはよくないと思うし、ここに出られている方それぞれが当然職員のある方もいらっしゃるの、細かいことをと言うわけにはいかない方もいらっしゃると思うんですが、それぞれの団体なり組織の中からそういうこの活動で、いわゆるユースですよね、若い世代である程度身動きが取れる方というか、実際に経験を積んでいくということにもなると思うので、ぜひそういった形で、組織内から候補を出していただくというのが望ましいんじゃないかなと思います。

あと、大分前に、2か月ぐらい前に飯田さんにも御提言というか、申し上げた点は、やっぱり政府から1人なり2人なり、政府側からそういう実働部隊と言いますか、そういう人出しをしていただかないと、全くお金とかそういうことは後からまだ集める、要は組織化に向けては時間がかかるわけですがけれども、やっぱりまずそういう体制を出していただかないと、この日本のIGF活動が政府主体ではないというのは分かるんですけれども、そのきっかけづくりというところの段階では、やっぱり何がしかのこういうサポートをしていただかないと、人的サポートをしていただかないとどうやっても回っていかないし、申し訳ないけど、山崎さんの仕事が増えてしまっているだけという現状になっていると思うので、そのところが一番危惧しているところなんですということですかね、私が言いたいのは。

【前村】 本田さん、ありがとうございます。御心配いただいているようで。ただ、今おっしゃったような総務省さんに対する要望の所在は分かったんですけども、それがかなえられるようにあまり聞こえないというか、かなえられているんだったらさっさとかなえられているんじゃないのかなというふうに思っておりますので、難しいんじゃないのかなと思うんですよね。なので、できるだけ我々もというか、山崎も工夫して、上手に回るような事務が提供できるようにしていこうとは思っています。皆さんの御協力がもし賜れるようであればとてもそれは助かりますので、どうぞ引き続きよろしくお願ひします。

【本田】 なので、もちろん協力はするつもりですけど、ただ、申し訳ないですけど、この項番の3、アジェンダ案の項番の3のところにある宿題というものも、結局議事録のほうもまだ過去の宿題の部分が積み上がってしまっているんで、1個や2個ぐらいだったら全然、構わないと言ったらあれですけど、あれなんですけど、第8回、第7回の部分もまだというところなので、こういうところがやっぱり人によってはトランスペアレンシーとかって言う人も出てくるわけで、そういうふうにもし業務がスタックしてしまうような状況であれば何らかの打開策を考えていかないといけないので、別に総務省がどうのとか言っているわけではないんですけども、それぞれの各関与団体からの支援というものが仰げないものなのかなというのは私は個人的には思っているというところなんです。

ですので、報告会のことに話を戻しますと、一応個別に募集も含め、またやっていくということですので、引き続きよろしくお願ひしますというところなんです。

【前村】 そのほか、皆さんからありますか。

それでは、本日活発化チームの会合第12回ですけども、以上にてお開きとさせていただきますと思います。

次回1月31日とそこに見えていますけども、見えなくしたほうがいいのかももしれないんですけど、1月24日の16時ということで先ほど御了承いただきましたので、その時間にまたお会いすることになります。報告会に向けた具体的な準備に関しては、コーディネーターの皆さん、ぜひともよろしくお願ひします。私もちゃんと組み立てていきたいと思ひます。

それでは、活発化チーム会合、これにてお開きといたします。皆さん、どうもありがとうございます。

以上